

J A自己改革推進レポート（JA鳥取中央）12月号

1. 課題解決へ、全常勤理事の訪問活動開始！

J A鳥取中央は平成30年から組合長による担い手農家への対話運動を始め、令和2年10月から全常勤理事による対話運動も始めた。役員それぞれが担い手農家などを訪問し、課題解決に向け意見交換をした。

10月16日には、蔵増専務と森嶋常務が湯梨浜町でホウレンソウや梨を栽培する谷岡さんとサツマイモなどを栽培する尾川さんを訪問し、10月21日には、戸田常務と向井常務が女性会倉吉支部の前田さんと今北さんを訪問した。さらに11月11日には、栗原組合長が北栄町女性担い手農家でスイカなどを栽培する杉川さん、村岡さんとホウレンソウを栽培する梅津さんを訪問した。

後継者不足・女性会の会員拡大に向けての課題・共同購入活動促進の為の組織の在り方・女性ならではの発想が活かせる体制づくりなどJA事業への要望を聞き取り意見を交わした。

同JAでは問題を共有し、課題解決を実践するとともに組合員との信頼関係を強化することを目的に担い手農家訪問に今後とも取り組んでいく。栗原組合長は「意見を積極的にJA事業へ活かす」、蔵増専務は「情報を繋ぎ、対策したい」と話した。

2. 「鳥取梨を食べようフォトキャンペーン」の審査会を行いました！

J A鳥取中央はコロナ禍での農産物販売戦略としてSNSによる発信の強化に取り組んでいる。ツイッターやインスタグラムなどで人気のクリエイターを起用した情報拡散に加え、同JA公式SNSで旬の農産物情報を随時発信している。

11月6日には、倉吉市で「鳥取梨を食べようフォトキャンペーン」の当選者を決める審査会を実施。公式SNSをフォローし、「#鳥取梨を食べよう」「#JA鳥取中央」のハッシュタグをつけて梨の画像を投稿した人の中から、同JA役職員と生産者5人で74(ナシ)人の当選者を決めた。当選者には晩生梨「王秋」1箱(5kg)を発送する。



10/16 蔵増専務・森嶋常務の担い手訪問



10/21 戸田常務・向井常務の女性会訪問



11/11 栗原組合長の女性担い手訪問



3. ブロッコリー収穫機の実演会を行いました！

琴浦ブロッコリー生産部は琴浦町で、県内初となるブロッコリー収穫機の実演会を開いた。ブロッコリーの生産基盤拡大に向け機械化の導入を進めていくことを目的に実施しており、鳥取県中部地区、西部地区のブロッコリー生産者、関係者など約70人が参加した。

ブロッコリーの収穫作業の現状としては、定植から栽培期間までの機械化は進んでいるものの、ブロッコリーの大きさを確認しながら一つ一つ包丁で切りとった後に規格に合わせて調整し、選択収穫のために何度も畑に入らなければならず、1人で10a分を収穫するには約一週間かかってしまう。

今回実演した乗用型収穫機では、労力が軽減され作業効率の向上が見込め、出荷ロスを軽減させることができる。

同JAでは令和5年までに300ha増の500haの作付を目標に生産振興を進める計画をしている。また、加工用ブロッコリーの出荷量を増やしていくなど生産力、販売力ともに強化していく。

同町でブロッコリーを20ha栽培し、将来的に収穫機の導入を検討している同部の手嶋さんは「作業工程を機械化することによって一貫して行えれば生産者は栽培に専念できる。面積を維持していくためにも収穫機による作業の省力化には期待している」と話した。

